公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信 2014年5月号

日本野鳥の会80周年

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆**探鳥会訪問記**（羽村堰「はじめてみませんか、バードウォッチング」）・・・・・・・・・・・1
◆**トコロジストになろう**
「定例探鳥会とトコロジスト」・・・・・・3
◆**三重からのご報告**
「野鳥の教材 DVD　小・中学校へ」・・・5
◆**東京からのご案内**
「明治神宮探鳥会 800 回記念例会を開催します」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
◆**探鳥会保険集計結果**
（2014 年3月分）・・・・・・・・・・・・7
◆**普及室からのお知らせ**
・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
・新入会員の方へ『ワイルドバード・カレンダー2015』をプレゼントします・・・・・10
◆**今月の購読者数**・・・・・・・・・・・・11
◆**探鳥会スタッフ通信の購読について**・・12
◆**編集後記**・・・・・・・・・・・・・・・・12

◆探鳥会訪問記（羽村堰「はじめてみませんか、バードウォッチング」）

羽村堰「はじめてみませんか、バードウォッチング」（奥多摩支部）

参加日時：2014 年５月 10 日（土）
10 時 00 分～12 時 00 分
天候：晴れ
参加者：18 名（女性 12 名、男性５名、堀本）
リーダー：４名

■探鳥会概要

羽村堰「はじめてみませんか、バードウォッチング」は、奥多摩支部が主催する初心者向けの探鳥会です。10 年程前から不定期に開催され、今年度より羽村市教育委員会からの後援を受けています。

集合場所は羽村駅からバスで一本の羽村市郷土博物館。博物館の立地は、草花丘陵と呼ばれる標高 200m～300m の丘陵地を背に、多摩川に面しています。なお羽村堰とは、博物館前の多摩川にある堰で、玉川上水の取水口となっています。一帯は都立羽村草花丘陵自然公園に含まれ、豊かな自然が広がっています。

探鳥会は、草花丘陵と多摩川の河原の野鳥を観察するコースでした。どちらも平坦な場所がコースに選ばれ、歩きやすかったです。

この日は、初めて参加する方や最近会員になられた方が半数近く参加していました。リーダーは先頭、中間、後尾に分かれ、初めての方や説明を聞きたい方を先頭リーダーが対応するかたちで進められました。

▲集合場所の様子

■探鳥会の様子と観察した鳥

集合場所には、あたたかい雰囲気がありました。それはリーダーの気配りのおかげでした。

リーダーが笑顔で参加者を迎え、「よく来てくれました」と声を掛けていました。また同時に先に待っていた方たちに、「〇〇さんは最近来てくれるようになった方ですよ」などとさりげなく教えていました。始まりの挨拶では、参加者も自己紹介をしました。ここでもリーダーは、「初めてです」という方には「大歓迎ですよ」と伝えたり、参加者の言葉の少なかったときには「〇〇さんはカメラが趣味です」「ここが地元の方です」と紹介したりしていました。そして驚いたことにリーダーは初めての方の名前もすぐに憶え、その後は名前でのコミュニケーションをとっていました。

まずは新緑が綺麗な丘陵へ向かいました。鳥の姿はなかなか見えませんでしたが、道中リーダーがいろんなお話をして楽しませてくれました。

「道の脇で花を咲かせている植物は、セリバヒエンソウといいます。以前は見られませんでした。セリのような葉とツバメが飛んでいるような形の花に由来します。鳥の名前が先に付いていたのでしょうね。」

「シジュウカラの声は分かりますか。スキスキスキとも聞こえます。」

折り返し地点では、静かに耳を澄まして野鳥の声を楽しみました。

▲丘陵での観察の様子

続いて河原へ移動しました。今日のお目当てはリーダーが下見で確認したキアシシギ。「秋の渡りでは別のルートを通るので、この時期しか見られない」という説明に参加者もわくわくして向かいました。図鑑と比べながら、黄色い足や胸の模様を確認し、14 羽と数も数えて、じっくり堪能しました。山野と水辺と両方に行くことで、2 時間の中にも満足感の大きい探鳥会でした。

観察した鳥は、キジ、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、イカルチドリ、キアシシギ、イソシギ、トビ、オオタカ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロの 28 種と、外来種のカワラバト、ガビチョウ、かごぬけのアイガモでした。

■参加者の声

以下は探鳥会に参加しながら雑談の中でお聞きした参加者のお話です。

60 歳くらいの女性：インターネットを見て大宮から主人と参加しました。数年前に近所の公園でキレンジャクを見て以来、鳥に興味を持っています。羽村堰には初めて来ましたが、自然が豊かな気持ちのいい場所で、リーダーの方のお話は楽しく、来てよかったです。

30 歳くらいの男性：近くに住んでいます。多摩川沿いをよく散歩しており、せっかくなので鳥を見ようと思いはじめました。HP を見て数年前に入会し、最近探鳥会に参加しはじめました。

■まとめ

初めて参加する方は、どのような気持ちで参加するのでしょうか。珍しい鳥を見たいという気持ちもあるでしょうが、どんな人たちがいるのだろうか、自分が参加してよいのだろうかという不安も大きいはずです。集合場所に来た参加者へ声掛けをすることは、参加者に安心感を与える重要な役割があったと思いました。常連参加者の中からは、「リーダーの人柄に魅かれて参加しています」との声も聞かれ、人との出会いは「また参加したい」という気持ちをうむ基本的な部分なのだろうなと思いました。

探鳥会の最後には、リーダーは初めて参加した方に、支部報や入会案内をお渡ししていました。またこの日は午後が支部報発送作業の日で、リーダーが「お菓子もありますよ」と声をかけ、3 名が参加しました。探鳥会に参加する方は野鳥の会に興味を持った人。次回の予定や入会の案内、一緒に活動できる場を紹介するのも大切な気配りのひとつなのだと感じました。

（普及室／堀本理華）

◆トコロジストになろう

「トコロジストになろう」の連載２回目は、トコロジストを生んだ神奈川支部から、鈴木茂也支部長に寄稿していただきました。支部の活動の中で最もトコロジストらしい活動のひとつが定例探鳥会です。今回は「定例探鳥会とトコロジスト」というテーマでご自身の二子山定例探鳥会について書いていただきました。

第２回「定例探鳥会とトコロジスト」

「おめーら今日はまた随分ゆっくり歩いてんじゃねえかよ。」
「そんなこと言ったって、しょうがないじゃんかよぉ。こっちはいろいろ見ながら歩いてんだから。」

これは神奈川支部の二子山定例探鳥会で、すれ違った近所のおじさんと私の会話です。文字にするのが恥ずかしいほど品格のかけらもない会話ですが、私も相手のおじさんも、そして後ろで聞いている参加者も笑顔です。これは長年通っているうちに生まれた、程良い関係の中で成り立っている会話なのです。

▲二子山定例探鳥会の様子。
橋の上から水鳥を観察（2002 年８月）。

定例探鳥会を行っている二子山は葉山町と逗子市の境界にあります。私の自宅は横須賀市ですが、定例探鳥会のコースまでは山道を辿って歩いて１時間から１時間半。距離にして約３～4 ㎞。地元と言っても良い距離です。

定例探鳥会のコースの選択肢としては、二つあると思います。一つは、自宅から離れた場所で野鳥が多く見られる探鳥地を選ぶ場合。もう一つは住んでいる地域の公園などを選ぶ場合です。私の場合は、自宅からの距離も近く、夏鳥としてオオルリやサンコウチョウも渡来する場所なので、両方を兼ね備えた環境と言えます。

二子山定例探鳥会は 1990 年から隔月・雨天中止で始まりました。その後、１回雨の日に当たると、かなり間が空いてしまうという理由から、毎月実施・雨天決行となりました。参加者同士の交流にも、野鳥の記録を蓄積するためにも、毎月の実施は有効です。

私のフィールドは、２市１町に跨った広い山林（丘陵地）ですが、定例探鳥会の場所はその一角に当ります。探鳥会の集合場所（葉山町）から山林に入るまでには、のんびりと１時間ほど、野鳥や草木や昆虫を観察しながら歩きますが、その途中には集落もあります。その集落を通過するときに、地域の方との触れ合いがあるのです。

単純に挨拶をするだけの方もいますが、野鳥の情報を伺ったり、時には駐車場をお借りしたり、実は自分の近所よりも親しい方が多いほどです。そんな関係が生まれた理由のひとつは、とにかく足繁く通っているからです。探鳥会の他に月に数回の野鳥個体数調査を何人かで 15 年ほど前から、行っています。これは、もちろん鳥たちの動向を知るための調査ですが、探鳥会の下見にもなりますし、今後保全のための資料ともなるでしょう。毎朝散歩を日課としているご近所の方とは、ここでも顔を合わせるのです。その時には、やや長い立ち話もします。

もう一つの理由は行政や他団体から、講師などの要請があった場合に、１度も断らなかったことにあります。行政や他団体からの要請は様々です。生涯教育としてのバードウォッチング講座、小学校の出前授業、野鳥や環境の調査、お祭りの宵宮で舞台に上がって山の様子を話したこともありました。中にはこちらの意思に

そぐわないものもあるのですが、もし２度目３度目があったら、少しずつこちらのペースに持ち込めば良いのです。

こういった活動は口コミで広がりますので、徐々に地域での活動が広がります。例えば、私が参加していない地域の会議の中でも、野鳥や環境の話題になった時に、誰かが「それは野鳥の会に話してみましょう。」と言ってくれるのです。また、要請に断わらずに引き受けると、良い意味での「貸し」がでます。町の広報誌に探鳥会のお知らせを載せてもらえますし、他団体には野鳥の会だけではできないことをお願いしてきました。

林道に面した杉林にサンコウチョウが営巣した時には、杉林を地主から借りて活動している団体に立入禁止にしてもらいました。講師派遣などの要請を受けた場合には、その場限りにならない良い関係を保つことが、トコロジストの活動にも重要なのだと思います。

二子山の定例探鳥会は現在４人で担当していますが、これまでに多くの人に支えられて来ました。担当幹事として活躍を頂いた方は勿論ですが、初めて参加した方に親しく話をしてくれる常連の方、植物や昆虫の説明をしてくださる方などです。定例探鳥会は担当幹事、参加者、地域の方の良い関係があって成り立っているのです。

（日本野鳥の会神奈川支部／鈴木茂也）

定例探鳥会や調査によってフィールドに詳しくなること（情報を持つこと）と、積極的に地域の要請にこたえて情報を発信すること（=地域とつながること）。この二つは、トコロジストの活動にとって車の両輪です。

鈴木さんの文章からは、この二つの活動によって地域の中で「二子山のトコロジスト」としての立場を築き、それを保全に生かしているご様子が伝わってきます。

おそらくこうしたことは、どこの支部でも普通に取り組まれていることでしょう。これにあえてトコロジストという名前をつけることで、あらためてその意義を自覚することができるのではないでしょうか。

（普及室／箱田敦只）

◆三重からのご報告

探鳥会リーダーの中には、担当する探鳥会での活動に止まらず、地域で様々な普及活動をされている方がいらっしゃいます。今回日本野鳥の会三重の今井さんに、小・中学校に配布するために作成したという野鳥の教材 DVD について、ご投稿いただきました。

「野鳥の教材 DVD　小・中学校へ」

松阪市の海辺で見られる野鳥や野鳥を取り巻く生き物・環境を子供たちに知ってもらおうと作成した DVD が小•中学校へ配布されます。内容は本編映像「松阪市の海辺の鳥たち」（10 分 31 秒）とスライド画像（49 枚）で構成されています。

■DVD 制作のいきさつ

松阪市の三雲文化協会主催の野鳥観察会が毎年 3 月に松阪市の五主海岸周辺で行われています。私がこの観察会を日本野鳥の会三重の仲間と手伝うようになったのは 2011 年からです。2013 年 3 月に行われた野鳥観察会でセイタカシギの繁殖過程をパンフレットにして配ったのが、DVD「松阪の水辺の鳥たち」制作のきっかけになりました。観察会が終わった後の昼食の席で三雲文化協会の会員である中村さん（松阪市議）から「野鳥のことをもっと子供たちに知ってもらおう」と話が上がり DVD 制作を依頼されました。当初は三雲地区の小学校５・６校という話でした。対象が小学生と言うことで用語と内容をどうしたらいいか。そこで中村さんに実際に教室で生徒に教える先生の紹介を頼みました。中村さんが紹介してくれたのは松阪市教育委員会の石井さんでした。石井さんが制作に協力してくれたおかげで三雲地区の５・６校でなく松阪市の小・中学校全校に配布するところまで話が進んで行きました。内容についても５年生でラムサール条約を教えるのでこれも入れよう、松阪に飛来した希少種も取り上げよう、動画も入れた方が良いとなり、セイタカシギの動画を撮っていた田中さん（日本野鳥の会三重）に動画の提供をお願いしました。こうして DVD「松阪の海辺の鳥たち」の制作が進み、松阪市の小・中学校の教材として 5 月に各学校に配布されることになりました。そしてこの DVD を教室以外でも見られるように HP にもアップすることになりました。DVD「松阪市の海辺の鳥たち」が完成に至ったのは三雲文化協会の野鳥観察会を手伝うようになって知り合った松阪市議中村さんの熱意と教育委員会の石井さんの協力があったからです。

▲DVD「松阪市の海辺の鳥たち」表紙

■配布先・枚数

松阪市内小中学校（48 校）小学校 36 校・中学校 12 校。

■配布方法

学校エコチャレンジ担当者会で紹介して配布。松阪市の説明によれば「学校エコチャレンジ」とは平成 13 年度 11 月に松阪市が ISO14001 の認証を取得したことから、学校においても環境教育の一環として ISO14001 の手法を取り入れ、児童、生徒及び教職員が一体となって行動しつつ、環境について認識を深めるため、「学校エコチャレンジ」と名づけて取組がスタートしました。

■活用方法

各校での環境学習（5 年生社会や総合的な学習の時間等）の際に、地域の教材として活用する。

■子供たちへの期待

私は津市と松阪市の間を流れる雲出川の河

口近くに住んでおり、近辺の水鳥、なかでもシギ・チドリ類をメインに観察を続けてきました。伊勢湾には多くの河川が流れ込んでいますが、中でも松阪市の雲出川から櫛田川にかけては大小 7 つの河川が集合するように海域に流れ込んでいます。そのためアオサ場や広大な河口干潟が形成され、野鳥の餌となる動植物が多いことから県内一の渡り鳥の中継地になっています。また堤防内側には複数の水路や池があり海水域と淡水域があることから、一年中、松阪や松阪の周辺にいて遠くに移動せず繁殖する鳥もいます。DVD 制作の直接のきっかけになったセイタカシギの繁殖も記録されています。野鳥を観察する素晴らしい環境が松阪市の海辺にはあります。松阪市の海辺で水鳥たちがどのように生きているのかを子供たちに知ってもらいたい。野外で野鳥の行動や生態を見ることで野鳥は面白いと子供たちに関心を持ってもらいたい。この DVD「松阪の海辺の鳥たち」が野鳥への興味を深め、野鳥を通して自然環境を守る大切さを考えるきっかけになればと期待しています。

（日本野鳥の会三重／今井光昌）

◆東京からのご案内

「明治神宮探鳥会 800 回記念例会を開催します」

日本野鳥の会東京の明治神宮探鳥会が 6 月に 800 回を迎えることを記念し、室内例会「籾山徳太郎とその時代～1950 年代黎明期の野鳥の会東京と研究者たち～」を開催します。

今回は明治神宮社務所の特別なお計らいで、社務所の講堂をお貸し頂けることになりました。また講師陣も素晴らしいメンバーが集まってくれました。皆さんのご参加をお待ちしています。

＜開催概要＞

【主催】日本野鳥の会東京

【開催日時】6 月 29 日（日）
13 時 30 分～16 時 00 分頃　※13 時開場

【参加費】500 円（＋カンパ歓迎）

【場所】明治神宮社務所内　講堂

【開催内容】1950 年代、明治神宮探鳥会は貿易商で鳥類研究者の籾山徳太郎がチーフでした。柳田国男が参加し、鳥の公爵と呼ばれた鷹司伸輔宮司がバックアップしていた時代の探鳥会の姿を浮き彫りにします。戦後、神宮の探鳥会が日本で唯一の定例探鳥会だった頃、野鳥の会はどんな風に作られていったのかも見えて来る筈。日本の自然保護の 1 ページを探検してみましょう。

【プログラム】

①平岡孝 氏（山階鳥類研究所）
「鳥学研究者としての籾山徳太郎」

②西村眞一 氏（元日本野鳥の会東京代表、中西悟堂研究家）
「籾山徳太郎と中西悟堂、1940 年代の野鳥の会」

③小泉伸夫 氏（明治神宮探鳥会担当リーダー）
「明治神宮探鳥会 800 回の歴史と変遷」

（日本野鳥の会東京／糸嶺篤人）

◆探鳥会保険集計結果（2014 年３月分）

３月は 65 支部からご報告をいただき、計 264 回の探鳥会が開催され、のべ 6,083 人が参加されました。

表１．３月の探鳥会保険集計結果（2014 年４月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	27	5	1	33
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	0	0	0	0	0
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	9	1	2	12
道北支部	1	3	17	2	22
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	4	65	23	8	96
小樽支部	2	7	2	3	12
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	25	4	3	32
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	15	1	2	18
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	3	31	0	3	34
秋田県支部	3	20	4	3	27
山形県支部	2	13	6	2	21
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	16	5	3	24
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	4	51	14	7	72
ふくしま	2	35	0	4	39
郡山支部	3	17	0	6	23
二本松	1	5	0	2	7
白河支部	1	7	0	1	8
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	23	1	1	25
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	14	155	63	25	243
栃木	−	−	−	−	−
群馬	8	141	51	26	218
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	11	246	39	72	357
千葉県	10	160	55	42	257
東京	15	490	7	74	571
奥多摩支部	13	149	19	43	211
神奈川支部	13	230	51	45	326
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	37	19	2	58
石川	2	26	3	4	33
福井県	1	9	0	1	10
長野支部	2	38	23	4	65
軽井沢支部	1	8	9	1	18
諏訪	1	11	33	2	46
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	−	−	−	−	−
甲府支部	1	11	0	2	13
富士山麓支部	−	−	−	−	−
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	2	24	7	3	34
南富士支部	2	50	2	3	55
南伊豆	1	12	0	2	14
静岡支部	4	27	4	4	35
遠江	3	35	4	9	48
愛知県支部	15	162	206	41	409
岐阜	−	−	−	−	−
三重	2	14	11	2	27
奈良支部	4	89	2	8	99
和歌山県支部	1	3	7	3	13
滋賀	4	39	26	8	73
京都支部	1	18	2	2	22
大阪支部	25	489	118	109	716
ひょうご	8	153	129	19	301
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	22	17	3	42
島根県支部	2	16	12	2	30
岡山県支部	6	148	38	20	206
広島県支部	5	52	47	6	105
山口県支部	6	26	31	6	63
香川県支部	2	67	17	3	87
徳島県支部	5	60	10	5	75
高知支部	2	12	30	2	44
愛媛	5	32	19	10	61
北九州	2	37	1	2	40
福岡支部	8	166	21	17	204
筑豊	2	18	0	2	20
筑後支部	4	23	18	4	45
佐賀県支部	3	36	8	3	47
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	5	78	13	6	97
大分県支部	2	17	20	2	39
宮崎県支部	1	4	3	1	8
鹿児島	3	58	24	11	93
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	264	4,067	1,302	714	6,083

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』の取り組み■

◇どんな種を扱うべきか？

「鳥は何種？」とか「日本には何種いる？」と問われたら、どう答えますか？　厳密にはわからないし、簡単には答えられません。「およそ１万種」とか、「５～６百種程度」で納得いただけない方には、私は『フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版』を使って「世界で 9721 種」「日本鳥類目録（改定第６版）で 542 種」などとしてきました。が、2012 年に発行された日本鳥類目録改定第７版には 633 種が掲載され、外来種や検討中の種・亜種もそれぞれ倍近くになりました（目録６版から７版の変更点については、野鳥誌 2013 年１月号および 2・3 月号をご参照下さい）。また、前回記したように、『Checklist of the Birds of　the World』は未だスズメ目が刊行されていません。

1982 年、高野伸二は、目録 5 版の掲載種が 505 種の時代に、信頼できる観察例などを加えて 524 種を扱ってフィールドガイド日本の野鳥を著しました。増補版では野鳥記録委員会による検討を元に、31 種を増補しました。私が増補改定を担当することになった 2006 年には、より多くの種を扱う図鑑も増えた一方で、信憑性に乏しい観察例、誤解や間違いもそのまま公にされるようになり、混乱も頻繁に生じるようになっていました。増補改定版では「この本の使い方」で書いたように、目録６版で掲載および検討中とされたもの、あるいは論文などから、今後も観察されそうな種を軸に検討を重ね、さらに扱うべき種として 38 種を絞りました。図版も多いほど情報量は増えますが、多いほどわかりにくくなる側面にも考慮し、類似種の解説に含めて図版なしで種の紹介をしたものもあります（補足種という扱いで 23 種に及びます）。

外来種も含め、今後も記録は増え続けるので、すべての種を扱うことは不可能です。これから出版する増補改定新版（以後、新版と呼ぶ）では、上記のような考えで検討を重ねた結果、新たに図版込みで扱う種は１９種に厳選し、オオハシウミガラス（1983 年の記録が確認された）のような目録７版掲載種でも敢えて漏らした種は、補足種や鳥類リストでカバーすることにしました。

◇分類変更への対応

すでに改訂版で目録７版に準拠させた「新・山野の鳥」「新・水辺の鳥」は目や科、学名などを新たにしましたが、支部ネット通信３月号で書いたように、国や自治体、博物館や動物園でも目録７版に対応できていないところは多々あります。一方で掲載順を目録７版に沿わせた図鑑も発行されはじめ、「新版はどうなるの？」とよく聞かれます。結論から述べると、分類や野鳥チェックリストは７版に沿って新たなものにしますが、掲載順は変えないことにしました。

並び変える検討もしましたが、物理的にも、高野著作の継承という側面でも不可能でした。実は、高野著作は目録掲載順を原則にしながらも、図鑑としての使いやすさ、わかりやすさに鑑みて部分的に変えてあります。それを活かすべく、増補改定版では、「山野の鳥」「水辺の鳥」というカテゴリーにも合わせて、「非スズメ目の水辺の鳥（水面、海上、水際）」「非スズメ目の山野の鳥」「スズメ目」というくくりでまとめて、前後の見返し頁もそれに対応させ、お目当ての鳥にコンタクトしやすいように工夫しているのです。

▲増補改定版の見返し頁の例

（普及室／安西英明）

■新入会員の方へ『ワイルドバード・カレンダー2015』をプレゼントします■

当会は今年、創立 80 周年を迎えます。それを記念し、今年（2014 年 1～12 月）入会申し込みをされたみなさまへ、当会オリジナル『ワイルドバード・カレンダー2015』をプレゼントいたします。この記念の年に、たくさんの方にご入会いただき、ますます活動の輪をひろめていければと期待しております。

ぜひ、入会をご検討の方におすすめいただき、入会促進にお役立てください。どうぞよろしくお願いいたします。

◇プレゼントの概要

【対象】2014 年中に、「公益財団法人日本野鳥の会」に入会申し込みをされた方。
≪対象の会員種別≫　おおぞら会員、青い鳥会員、赤い鳥会員、個人特別会員
（家族会員の方は、ひとつのご家族につき一本となります。）

【プレゼント内容】『ワイルドバード・カレンダー2015』1 本を財団事務局よりご登録のご住所に郵送いたします。

【お届け時期】『ワイルドバード・カレンダー2015』は 2014 年 9 月頃完成予定です。そのため、お届けは 2014 年 9 月以降とさせていただきます。

◇支部のみなさまへ

「チラシ配布のお願い」

- プレゼントの案内用チラシがございますので、入会案内と一緒にお配りくださいますようお願いいたします。
- チラシ配布にご協力いただけます場合には、通常のパンフレット類のご請求先[会員室会員グループ（TEL：03-5435-2630／FAX：03-5436-2636）]まで「新入会員カレンダープレゼントチラシ希望」とお伝えの上、必要部数をおしらせください。事務局よりお送りいたします。

◇お問い合わせ

公益財団法人日本野鳥の会
普及室　販売出版グループ
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2623
FAX：03-5436-2636
メール：birdshop@wbsj.org
ホームページ：
http://www.wbsj.org/join/join-and-changes/personal/join-gift/

（普及室／江面康子）

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信５月号の電子メール版の購読者数は、先月から 26 名増えて 683 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表２．探鳥会スタッフ通信５月号電子メール版の購読者数（2014 年５月２２日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	0	福井県	10
オホーツク支部	7	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	3
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	0
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	1
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	0	南富士支部	1
苫小牧支部	1	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	4
道南桧山	1	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	2
弘前支部	4	三重	3
秋田県支部	1	奈良支部	1
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	0	滋賀	18
もりおか	2	京都支部	131
北上支部	0	大阪支部	5
宮城県支部	6	ひょうご	5
ふくしま	2	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河	1	広島県支部	6
会津支部	2	山口県支部	2
奥会津連合	0	香川県支部	3
いわき支部	0	徳島県支部	4
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	20	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	23	筑豊	1
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	17	佐賀県支部	3
千葉県	15	長崎県支部	0
東京	43	熊本県支部	0
奥多摩支部	46	大分県支部	2
神奈川支部	9	宮崎県支部	2
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	0	やんばる支部	0
富山	1	石垣島支部	0
石川	5	西表支部	2
		合計	683

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

夏日があったかと思うと、肌寒い日もあり、なかなか気候の安定しない日が続いていますが、体調など崩されていませんか。

今月は奥多摩支部の探鳥会に参加させていただきました。初めて参加した支部報発送作業には小学生や中学生も来ており、様々な世代が一緒に作業し語らう様子に、野鳥の会が地域のコミュニティにもなっているのだなと感じました。

なかなかこちらから伺うことの難しい遠方の支部の皆さん、担当している探鳥会や日々の普及活動の取り組みなどのご紹介お待ちしています。

（普及室／堀本理華）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第 14 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　　2014 年 5 月 22 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org